

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：福祉分科会（第2回）

開催日時：平成21年8月28日（金）9時00分～12時00分

開催場所：中央保健福祉センター 地下会議室

出席委員：荒 久美子、海老原 寛子（分科会長）、古宮 保子、峪 二葉、百田 清美、村島 隆一、細田 香苗、石井 久雄、林 総太郎（敬称略、順不同）

欠席委員：鎌田 啓作（副分科会長）、文入 加代子、三木 京子（敬称略、順不同）

事務局：伊東 朱美、久富 博之（政策調整課）

【会議内容】

■分科会会長挨拶

欠席の方もいらっしゃるが、たくさんの本格的な議論をできればと思う。よろしくお願ひしたい。

■事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

本日のねらい：「テーマ・政策に関する理解・探求促進」

- ・ 資料の確認：全体の会議録は郵送で。
- ・ 進め方：結論を出すのではなく、話し合いを通じて探求・理解を深めることを目的とし、第2回で話し合われた内容をもとに第3回以降で成果物を生み出していく。
- ・ 話し合いのルール
 - ⇒全ての意見に価値を置く
 - ⇒人の話をよく聴く
 - ⇒想いや考えは全体で共有する
 - ⇒時間厳守
 - ⇒未来に焦点をあてる

■チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

- ・ 学力テストの算数の成績が悪いということがニュースで流れていたが、これは勉強の問題ではなく子どもたちの生活の幅がせまくなったために、日常生活から得られるものが減っているのではないか。例えば時間の計算などにし

でも、携帯があるので待ち合わせもだいたいですんでしまうし。そんなことを感じている。

- 確かに、昔習った植木算とか流水算などは実生活に役立つものだった。算数もそうだが、文章題がぞっとするほど苦手のような。秋田と福井が成績いいそうだが、そこは早寝、早起き、朝ごはんなどの生活習慣を大事にしているからという話もある。そうでないところは、それだけ家庭生活がきちんと機能していないのではないか。もう一つ言えば、一般の市民がこのような会合の機会を頂けるのは素晴らしいことだが、本来は議員の仕事のはずで、議員がいないことに疑問を持たないのはおかしいと思う。
- この会議に偶然参加するようになったが、そこにもいろんな偶然が作用していて運命的なものを感じる。市民参加の制度をうまく松戸で確立していきたいと今は本気で考えている。
- インフルエンザ担当のセクションにいるが、かなり流行ってきており、これから学校も始まり、次は選挙もあつたりするため秋のパンデミックが不安。
- 病院にいるので分かるが、新型インフルはあまり熱が出ない（だいたい38度にならないくらい）ため、具合が悪いという自覚もなく外に出て広がっていく。ご注意願いたい。
- 放課後児童クラブをやっているが、ここに来てかなりインフルによる閉所が増え、心配で眠れないくらいの日が続いている。その関係で携帯をチェックしたりすることがあるが、ご容赦願いたい。
- たくさんの資料を理解して、皆さんと本格的ないい議論ができたらいいなと思う。
- 全体会には参加できなかったが、今後よろしくお願ひしたい。大事だと思うのが、今後松戸の福祉がどう機能していくかという点。特に障害者の福祉に興味がある。
- 先日「子どもフォーラム」に参加し、2日で7時間という長時間、子どもたちに自分自身のことと松戸の未来について考えてもらったが、子どもたちはよく取り組んでいた。うれしかったのは、子どもたちが楽しんでくれたことで、こういうことをもっと多くの子どもができる機会があつたらいいと思う。

■分科会へのメッセージ・エール・依頼文の確認

■第1回分科会で話し合った内容の確認

■データ集を読んでの気づき・感想の共有

- 高齢者、子ども、障害者など弱者といわれるが、子どもと障害者の場作りはかなりできているのに対し、元気なシニアの場作りが一番足りていない。行

政は運営・運用を市民に任せ、ハードとしての場を作ってほしい。それが、世代を超えたコミュニケーションの場にも発展しうる。

- ・市民病院のあり方として、総合病院の運営が難しくなり、人件費のために外国からの看護師などをたくさん入れてしまったりすると、市民の病院ではなくなってしまう。市立病院の重要性として、救急を断らない、総合の機能を持つということがあるから、それ以外の部分をうまく私立の病院に割り振るのが望ましい。療養型病床に責任を持って移せる政策がほしい。
 - ・独居老人への施策として、例えばヤクルトレディなど民間の営業の人たちと連携を図り、地域の見守りに協力してもらったらどうか。それによって、行政も別のやるべきことをできるのでは。
 - ・病院移転の関係でいろんな人に話を聞いたが、不透明な中で進められている感が強い。経営基盤が長期的に安定した、民間であり専門のいない精神病などを担える、日本の市立病院としての成功例になってほしい。
- 精神科に来る患者は、家族と一緒にないと診察に来られない人が多いので、夜10時、11時までやる。だから採算の面で市立病院レベルでなく、国や県レベルでないと難しい。
- ちなみに、市立病院には毎年25億くらい市税から持ち出しがあるので、市民の税金という観点からその辺も考えてほしい。
- ・精神障害者が非常に増え、最近は生活保護も受けることが多いので財政負担が大きな問題となる。今後は就労支援や、ボランティアなどの人的支援が必要だと思う。
 - ・P.60「障害者手帳の保持率」をみると、精神障害者の保持率が低い。これは、自ら名乗り出ずにもぐってしまう人が多いため、サービスを受けてない人が多いことを表している。
 - ・高齢化率の高さは、若者が市外へ出ていくことも大きな原因。だから、若い人の住みやすい街を考えたい。そのためには保育所が少ないのも問題だし、安定した雇用も必要だし、子育てをする家庭にも手を差し伸べたい。保育園は就労証明がないと使えないが、このご時世で仕事もあまりないので、子どもも預けられず、働けないという問題がある。
 - ・他の分科会と重なる部分もあり、そこについての福祉分科会の意見をどう発信できるか考えたいと思う。
- これに関しては、他の分科会にも福祉分科会の議事録を配るので、そこで見てもらったりすることで共有を図れる。
- ・子育て支援施設については、ただ時間を延長すればいいというものではないことが最近分かってきて、共助や見守り、ただ聞いてあげることが大事だと思う。そういうことならやれる市民もたくさんいるはず。

- ・松戸には本当にいろいろなサービスや施設があるが、それを必要な人が利用できているのかは疑問。ただ、先ほどの精神障害者の例のように、本人が一步踏み出さないとサービスにつながらないものも多いので、そういう人を見守る息の長いコーディネーターも必要になる。
 - ・P.65 に地域包括センターのデータがあるが、柏と比べて一人当たりのセンター数が少ないので、個人個人にきちんとサービスが行きとどかないと思う。さっきも少し出たが、在宅老人に対する愛情が足りないのではないか。
 - ・P.72 「待機児童数」のデータをみると、数字は難しいと思う。松戸では、保育園を使いたいと思っても親が就労していないと「待機児童」にはカウントされないから、他市と一律に比べるのは無理がある。もちろん、数字の必要性は理解できるが。
- P.72 の待機児童の話は同感で、データの取り方で変わってくる。自分が子育て関連の施設に関わっていて、待機児童が少ないというのは全然実感できない。児童虐待が増えているというのも、どこに原因があるのか。これまでもあったものが、通報が増えたために表面に出てくる数が増えたということなのか、その辺りを知りたい。
- ・P.71 に母子健康手帳配布の際に健康相談を実施しているとあるが、周りのお母さんから話を聞くと、そこで責められたりしてかえって傷つき、相談に足が遠のくというケースもかなり多い。本当に活かされればいいなと思う。
 - ・結局、松戸は何でもそろそろ百貨店型の政策を取っているが、すべて帯に短し襷に長しではなく、ポイントを決めて、そこから周囲に市民の力も借りながら手を広げていく発想が必要なのではないか。
- 松戸は、確かに何でもそこそこあるという感じの街なので、何かにしぼってインパクトを出していく必要はあると思う。
- ・個人的には、放課後児童クラブが増えているのは強みだし、保育所サービスの延長は強みだと思うが、他の方々はどう思うか意見を伺いたい。
 - ・P.51 で老人クラブの会員数が減少しているが、なぜか知りたい。逆にシルバー人材サービスセンターの人が増えているのはいいことだが。
 - ・松戸でも老老介護が大きな問題になってきているが、介護施設の部屋が個室化してきたため、コストが上がって年金などでは払えない額になっている。逆に、複数名が一室を共有するような施設がもっと必要。
 - ・P.66 に斎場関係のデータがあるが、独居老人の納骨等も問題として浮上してきている。納骨堂が市内にないから無縁仏を弔うことができない。そういう意味で、市営霊園の充実も考えていきたい。
 - ・ここでは市全体の視野に立って考えるから、P.11 の担税力のデータを見ていただきたい。松戸は他市に比べてかなりお金の面では貧弱だが、市立病院の

新型インフル患者受け入れが象徴するように、東葛地域の他の市民も地味に支えている面があるのは誇りに思っているし、そこはぜひ認めてほしい。駅前などの目につく所だけでなく、そういう所にも着目して考えていきたい。

→市の少ない資源、多くの分野で活躍している人がたくさんいる中で、総合的な市民の力でいろんなことをやっていかなければいけない。実際、自分が子育てで大変だった時、地域のボランティアとかいろんな方に支えていただいたし、そういう場で色々な話をする事で自分の辛さを相対化することができたから、多くの人に関わるのはとても大切なことだと思う。

■対話セッション

- ・肥沃な土地松戸にある休耕田を、シルバー人材の力でよくしたい。
 - ・松戸の名物を使ったスイーツ等を作りたい。
 - ・シルバー人材を利用して、たまり場を作りたい。
- 老人は週に1回とかなら集まってくるので、そこで物作りとか、何かを生み出すことに携われるのはいいことだと思う。学校の調理場などをつぶさないで、料理する人を集めて地産地消に活用すればよいのではないか。
- 確かに、家庭科室はあまり使われないからもったいないが、衛生面での条件が厳しいので維持管理が大変という面もある。
- だからこそ、公的な部門が管理すると財政難の中縮小せざるを得ないし、運営でも時間の面などで臨機応変にできないから、民間に任せて採算をとれるようにしたらいい。
- 行政は財政的に苦しいわけだから、ボランティアのネットワークをうまく使ったらいいし、そういう場面に高齢者の出番があると思う。
- ・健康だけど仕事をしていない、ただしそれほど金銭的に余裕はない男性のたまる場所がなく、図書館などで将棋をしたりしている。公団住宅に空いてる部屋があるなら、そういう部屋を借りてたまり場を作ってあげたらいいのでは。たまに、公園などをそういう男性が歩いていると邪魔者扱いされてたりして、かわいそうだと思う。
 - ・京葉ガスピルの料理教室をはじめ、民間の料理できるところと提携し、食を通して人と話すことをすすめたい。
 - ・障害者の子を抱えている友人が、たまにパニックになって病院に行ったりする。そういう同じ悩みを抱えた人同士が話せる場所があればいいと思うが。
- 精神障害者の問題は、親が元気だったから表面に出なかったが、高齢化が進んだために顕在化してきた面もある。
- 消防だって、昔は消防団という民間組織しかなかったのが、必要とされるようになって消防署ができた。本当に市民が必要と思ったら、それをバックア

- ップする動きがきちんと出てきてこそ、行政が動ける。
- ・練馬区で、精神障害者のたまり場を商店街の真ん中に作ったそうだ。そのおかげで、商店街のお祭りの手伝いとかいろんな機会を通じ、市民とつながることができる。こういうことが、松戸でもできるといいが。
- 今は不景気だから、なかなか難しいかもしれない。
- ・障害者の関係でいえば、知的障害者にはある程度制度ができあがっているが、精神障害者は最近厚労省が方針転換したばかりで、就労援助などを進めているが、現実が追いついていない状況。
- 精神障害者は、気分には波があるのでなかなか受け入れられにくい。また最低賃金の関係もあり、不景気で障害者を雇ってくれる企業もなかなかいない。
- ・農家の後継者不足解消のためにも、高齢者や障害者に土に触れてもらうことで、生きがいを感じてもらうのはいいことではないか。
- そうは言っても、実際に経験がないと作物をてがけるのはなかなか難しい。いいことではあるが。
- 高齢者だけではなく、ニートとかいろんな人に入ってもらって、交流の場にしたらいのでは。
- 農業はスピードがはやくないからのんびりしていいし、成果として食べ物ができるのもいい。セットでコミュニティカフェなども作ってはどうか。
- もし本当にやるなら、食品会社などに働きかけて、経費を出してもらおう努力も必要になる。
- 以前市民農園で、障害者のグループと農業をしたが続かなかった。逆に、いろんな人が入ればそれぞれ得意なことをやってもらって、なんとかできそうな気もする。そうやって多くの人とのつながりを考えていかないと、これからは自分だけで何かやるのは難しい。
- ・協働を考えると、市ができる一番大きいのは「看板」の提供。市がついていくということで一般の人が安心して活動できるし、それで事業が成り立つ部分も大きいと思う。お金を出さなくても、そこを充実させればいい。
- 行政の役割として、いろんな人の個性をうまくコーディネートして、ソフト面でのつなぎ役になることが大事になってくるのだろう。
- 市民の側で、役所のOBをぜひ活用してほしい。OBは、市のシステムを知っているし民間にも根を張っているので、いいコーディネーターになりうる。また皆さんには、こういう分科会を離れてアフターの部分でぜひネットワークを作ってほしい。気に入った人同士が新しくつながって、新しい行動を作り出すことができるかもしれない。
- 協働とか連携を考える上で、あせりは禁物。自分の死後にできるくらいのもりで、長期的な視野で考えていくことが大切だと思う。

- 投票：対話での探求を踏まえて、共有された課題意識・想い・具体的な期待の中から、特に重要だと思うものについてシールで投票した
- 項目の中で市民として貢献できることや課題に下線をひいた。
- 以上の内容を整理したものが別紙
- 話し合いの感想を共有、兼チェックアウト
 - ・いろいろやることはあるが、休耕田のコーディネーターとか、1つでも具体的なわかりやすいことを出せたらいいと思う。
 - ・即効性を持つ具体策が出てよかった。次回進めていきたい。
 - ・病院の移転が、不安の残らない形で行われるようにしてほしい。
 - ・大きな議論となった農業の件もそうだが、地域との共存共栄が大事。
 - ・話が具体化して実現可能になってきたので、ワクワクしてきた。よかった。
 - ・いろいろな政策がつながっているので、情報がほしいものはまとめて集めた方がいい。また、病院は他とは違う視点で見ていく必要がある。
 - ・松戸は人々の居場所が必要だということがよくわかった。緑が豊かな松戸には、それはぴったりだと思う。
 - ・何よりも、人が一番大事な資産だと思う。自分も強い意志と笑顔をもって人に接し、活動していきたい。
 - ・地域課題を担うのは市民で、行政はそれを妨げないようにしていくべき。市民がよく考えて自らよく動くようになってほしい。
- 分科会会長あいさつ

かなりいろいろな話が出たが、いいアイデアが出て議論がまとまってきたのでよかった。また次回もよろしく願いしたい。
- 次回の説明

ここまでの探求を踏まえて、私たちは何を実現したいのか政策テーマごとに検討し、「目指したい姿の宣言文」を作成する。

以上

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>03 健康に暮らすことができるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動面、食の面で健康へのアプローチを市民へ周知を図る ・子どもへの安全の確保をしたい。事故、犯罪、ネット、食 ・食の安全(高齢者、子ども) ・高齢者、障害者、子育て世代、誰もが外出しやすい”まち”、外出しなくなるまちにする。 ・女性や若年者の経済的自立 ・日常生活習慣の振り返り ○老人クラブ↓ シルバー人材センター↑ 障害ある人の就労状況↑(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ○肥沃な土地松戸、休耕地をゆとりある人材(シルバー人材、障害者(精神)、子育て他誰でも)でおいしい食材を作る。→たまり場に(10) ○スイーツ、お惣菜、松戸名物を使った小物作り(1) ○巡回バス、ボランティア行動のための運行(4) ○働くための能力を身につける講座の開設など(1) ○健康な生活を守るために食育・食の安全について市民にわかりやすい情報提供をしたい(2) ○シニアのための場づくり(協働の行政の役割)、運営は市民・ボランティア(2) ○人材(シルバー人材)の強みを活かし、地域でたまり場をつくる(2)
<p>04 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どう老いて、どう死ぬかのモデルが崩壊 ・住み慣れた家、地域で高齢になっても住み続けるサポート ・支えあいながら誰もがいきいきと暮らせると良いと思う ・加齢による障害も含めて自立した暮らしをするため求められた支援に応えるボランティアの働きをまとめる ・市民の方のすばらしい取り組み(福祉の観点での)に地域の中で参加しやすくなるようになると良いと思う ・ひとりひとりの悩みや、不安を聴く場、人は必要(困ったに寄り添う) ・誰かの”困った”を何らかのサービスにつなげたい(エンパワー前提) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民後見制度の確立(人権系) ・認知症気味な人を地域でまた、行政できちんとサポートできる体制。現在では、消費生活センターへ付き添いで行っても、本人が意思表示しなければならぬ(受け付けてもらえない)知的障害者も同じ。松戸市独自 ・1人ひとりの市民は、どうむきあうか考え直す必要 ・市は既成の制度の枠を越えて、狭間に落ちる課題を拾う施策が必要 ・ネットワークづくりのコーディネーターの働きが大切 ・多様な人との関わりの機会(価値観を認め合う) ・ひとり暮らしの高齢者に家にひきこもりの人を地域の中で支えることが欲しい。また、ひとり暮らしの成年層がそのまま高齢者にならない予防対策を築きたい ○認知症気味な人を、地域や行政できちんとサポートできる体制。現在では消費生活センターへ付き添いで行っても、本人が意思表示しなければ受け付けてもらえない。知的障害者も同じ。松戸市独自 ○市民と地域包括支援センターとの関わり方ー市民で出向く→センターの方が訪問する ○ボランティアの考え方、無料化サービスかビジネスか(例:宅訪問容が5000円は激高)。 ○「自己決定」なくしては納得いく福祉サービスとならない。「困っている人」と「サービス」をつなぐ人、コーディネーターが重要。「見守り」(4) ○資源(施設、サービス)が必要な人に、必要な時に届いているのか(3) ○施設利用額を低くするための策(1) ○独居、高齢世帯の見守り。市内業者との連携も含めて(2) ○市営斎場を持っている(単独で)。納骨の設置が必要(4) ○「後見依頼」の相談に行った場合、職業後見人を紹介するだけ(もっと、親身かつ有効な方法をともに模索する)(2) ○障害福祉サービスー対象者の増加、支援不足の対応など財政負担増の対策が必要(2) ○松戸市独自の福祉サービスの確立。就労支援の強化(1)

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>05 安心して子どもを産み、健やかに育てることができるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が住み続けられる松戸にしたい(転出を防ぐ、良さのPR) ・親と子が同居、近居してお互い、豊かに暮らせる松戸 ・世代をこえた人たちが何気なく集える場づくり ・住み分けられている遊びの場、居場所 ・子ども関連のところしか行けない、行かない子育て中のママ ・幼児虐待の解消に向けてのネットワークづくり ・子育て情報のはんらんの中で見失う自分らしい子育て ・自立できない人への対応 ・教育の成果は50年先に出ることを思って子育てにサポートする ○父子家庭への支援 ○データ集→高齢化率。保育所。目標を持って学校生活をしている児童生徒の割合↓。安定した雇用。 ○報告書(前)→P.22 子どもを取り巻く環境、家庭が行うべきが多い。P.96集団生活のルール。 ○報告書(後)→P.182 保育園の増設、公立学校への不満、若者・子育てに住みやすい町(市民要望から)(2) ○保育所待機児童数(P.72)→松戸は施設数より少ないがなぜ?潜在ニーズはあるのではないか?(1) ○お母さん方の声、保育園が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1子の平均年齢高齢化、潜在的には待機児童いる(P.70)→働きながら子育てしやすい松戸を、積極的にPR+支援(3) ○保育所待機児童数が少ない—乳幼児家庭では実感できません!(2) ○放課後児童クラブ増加、保育延長サービス拡大は良い→のばして行ってほしい→良さのPR ○母子の健康相談—アドバイスでさらに傷つく ○最後に、他グループとオーバーラップする部分があると思う。その交流は? ○強みは沢山あるが、弱みは? ○支所ごとの人口変化→増加している地域の増加理由、それによって施策が変わる ○児童虐待件数の増加—虐待防止ネットワークの強化(3) ○(課題意識の変化)高齢者の参加による子育て環境の整備(地域での子育て)(3)
<p>06 市立病院として高度で良質な医療を提供する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸市が求める市立病院の役割 ・地域社会が求める市立病院の役割 ・市内の辺地からの市立病院へのマイクロバスの送迎などの確保 ・なくてはならない市立病院の赤字を市民のテーマとしてとらえていく ・市民が求める市立病院 ・時代が求める市立病院 ・救命救急に応える病院でありたい ・松戸市の「力」で支える市立病院の役割 ・市立病院が東葛地域の基幹病院としての役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院の出前講座を体験したが、より多くの方が受講し、まず、みんなが関心をもっていきたい。そして、市民との連携へつなげたい ・市立病院の産科の充実(ゆりかご系) ・市立病院職員の民間病院との交流 ・松戸市にとって必要な新病院の実現 ・私立に望めない市立病院、外科に総合医療の専門医を確保してほしい ○「ペインクリニック」を私立病院に設けてほしい(東葛地区には2カ所しかない) ○市立病院のあり方、私立に任せきれない角度をとらえる(4) ○市立病院は市もさることながら、東葛地区の公立病院の役割もあるので、他の市町村からも運営資金の援助を仰ぐ(1) ○救急受け止め、療養病院への責任もっての送り込み ○市立病院の移設→良質な医療の提供、長期経営基盤の安定化(3)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆりかごから墓場まで ・八柱霊園に松戸市民枠を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ○百貨店型施策より専門店型施策を!(明確な特徴を打ち出す)(6) ○「どう生きるのか」を一人一人が考えることが大切。福祉と負担制度だけでは生きられない。「共助」、「見守り」、「ただ聴く」 ○(今後活かせる強み)様々な分野で活動している市民(市民活動)(4)

※病院関連以外の全ての部分に市民が貢献できるとの結論のため、下線は省略。